



士林官邸

士林官邸

蒋介石総統が宋美齡夫人とともに後半生を過ごした官邸

中華民国総統の地位にあった蒋介石が、1950年から75年に亡くなるまでの約25年間、夫人の宋美齡とともに暮らした邸宅です。蔣の存命中は海外の要人の接待等にも使われました。本館はもともとは1949年に台湾省政府が建造した海外からの賓客のための宿泊施設で、これに増改築を加えて官邸としました。1996年に一般公開が始まり、2006年から本館の修復が行われ、2009年に完了しました。本館で蔣夫妻の生活の様子が展示されているほか、敷地内には礼拝堂や中国式・西洋式の庭園、自然観察のできる生態園もあり、自然と人文の融合した公園として親しまれています。



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/2241/



エリア

台北市

テーマ

歴史

政治

建築

学びのポイント

1.

官邸が公園になったことは何を意味しているか

士林官邸は、蒋介石の存命中はもちろん、その死後に宋美齡がアメリカに居を移した後も、一般人は立ち入ることができませんでした。1970年代以降、台湾では国民党に対する反発が強まり、国民党側のそれへの対応として、蔣経国総統時代、李登輝総統時代を通じて政治体制の民主化が進められました。1990年代にもなお宋美齡が独占していた官邸を、当時の台北市が「みんなのもの」として一般公開したことには、国民党の古い特権を否定して民意に応える意味が込められていたと考えられます。

2.

蒋介石の官邸はいつ一般公開されるようになったのか

蒋介石の没後、宋美齡はアメリカに生活拠点を移してしまい、まれに台湾に戻った時にしか士林官邸を利用していませんでした。1996年、台北市はこれを接收し、一般公開しました。その当時の市長は民主進歩党の陳水扁でした。民主進歩党は、蒋介石や息子の蔣経国ら中国国民党による一党支配に反対する政治運動の中から1986年に生まれた政党です。

3.

現在の総統の官邸はどこか

台湾では、中華民国総統が執務を行う場所は「総統府」で、生活する場所が「官邸」です。そのため、台湾の「官邸」は日本の「首相公邸」に相当します。しかし、その後の総統は士林官邸に住むことはありませんでした。1996年、台湾で最初の直接選挙で総統に当選した李登輝は、士林官邸ではなく、自身がそれまで副総統官邸として使っていた、総統府に近い重慶南路二段に位置する住居に住み続け、そこを事実上の総統官邸としました。これ以降総統に就任した陳水扁、馬英九、蔡英文は、いずれも元副総統官邸を総統官邸としています。